

できることから始めよう ～新聞を活用して～

指定校 1 年次 中野市立高丘小学校 鬼熊正樹 倉田勝彦 島田祐次

I 本校の新聞活用（N I E）の現状

本校は、児童数 1 5 6 名、8 学級の小規模校である。

本校では、社会見学の新聞づくりにおいて高学年が信濃毎日新聞に出前授業をお願いしている経過がある。また、高学年では新聞を活用した家庭学習にも取り組んでいる。そのような土壌があるので、新聞を活用することに関して、子どもたちに抵抗はあまりないと思われる。一方で、一部の児童にとっては家庭で新聞を取っておらず、新聞に目を通すことが日常的でない実態もある。

今年度 N I E 指定校 1 年目となり、まず職員が N I E についての研修を行った。N I E とはどのようなものなのか、他校における各学年の取り組みや実践を信濃毎日新聞読者センターの方をお招きして研修した。

II 実践のねらい（育てたい力）

- 子どもたちや職員が新聞に触れて新聞を身近に感じてほしい。
 - 新聞は毎日発行されていて、前日の出来事の内容、写真などが載っていることを知ってほしい。
 - 図工や生活科などでものの作りをする中で、素材としての新聞紙の特徴を感じてほしい。
- 新聞づくりを通して、自分が伝えたいことを明確に表現してほしい。
 - 文字数も限定されている中で、自分が伝えたいことを簡潔に表現する力をつけてほしい。

III 研究の概要

1 新聞の提供状況

基本的には、職員室に信濃毎日新聞と地元の北信ローカル新聞が届けられている。また、信毎データベースも見られるように契約している。

本年度、長野県 N I E 推進協議会において新聞閲覧台についての紹介があったので、設計図を送付していただいた。庁務員さんに材料を手配していただき、閲覧台を作成していただいた。閲覧台は昇降口前の廊下に置き、前日の新聞を閲覧台に置き、児童が見られるようにしている。また、職員室へ当日の新聞を読みに来る児童も見られる。

2 実践授業

学級活動（人権教育）

- 授業学級 5 年 男子 1 8 名 女子 1 7 名 計 3 5 名 倉田勝彦教諭
- 単 元 名 あけぼの「やさしさを伝えるために」
- 本 時 案

①主眼

マララさんがノーベル平和賞を受賞した理由を新聞の記事から考えた子どもたちが、どうしておばあさんたちが識字学級で勉強しているのかを考える場面で、おばあさんが書いたメモやマララさんの新聞記事等を手掛かりにしながら友だちと考え合ったり、「やさしさを伝えるために」を読んだりすることを通して、差別によって勉強できなかったことが原因であることを知り、新たな疑問を持つ。

②本時の位置（全 5 時間中第 1 時）

次時：あけぼの「おらあ学校へいきてえ」で、不条理な差別と戦ってきた人々の努力を知る。

③人権教育の視点

- ・識字学級に通っている人たちのことや差別について詳しく知ろうと、新たな疑問を持つ。(課題解決に向けた意欲)

④指導上配慮する点

- ・本時はパキスタンの女性差別と関連付けて考えたり、言葉による子どもたちの混乱を避けたりするため、日本固有の「部落差別」という言葉は使わずに、「差別」という言葉で統一する。

⑤展開

展開	学習活動	予想される児童の反応	・支援 評価	時間
導入	1 マララさんの名前とノーベル平和賞受賞について知る	・誰、この人？ ・知らない ・マララっていう名前なんだ。 ・ノーベル平和賞を受賞したんだ。	・マララさんの写真を提示し、誰なのかを問う ・名前とノーベル平和賞受賞について伝える ・ノーベル平和賞について説明する	4
展開	学習問題：どうしてマララさんはノーベル平和賞を受賞したのだろう			
	2 学習問題について予想する	・平和賞だから、核兵器や原爆はいらないって訴えた。	・「平和」という視点で考えるよう伝える	1
	学習課題：新聞記事から考えよう			
	3 新聞記事を手掛かりに考える	・女子教育の権利拡大を求めたって書いてある。 ・マララさんは銃撃されているんだ。	・マララさんのノーベル平和賞受賞についての記事を配付する	5
	4 学習問題についてまとめる	・マララさんは、銃撃されてからも女子教育の権利を求めたから	・子どもたちの考えを板書しまとめる	5
	5 写真を見て何をしているのか予想する	・仕事をしているのかな？ ・みんなで勉強している ・地域の勉強会に参加している	・識字学級のおばあさんたちの写真を提示し、何をしているのか問う	2
	ジャンプ問題：どうしておばあさんたちは勉強しているのか、資料を手掛かりにして考えよう			
	6 資料を手掛かりにして考える	・このメモ書きは字が雑で読めない ・左から書いてあるから分からなかった ・マララさんは何をした人なんだろう？ ・どうしてノーベル平和賞を受賞したんだろう？ ・資料に共通していることなんてあるのかな？	・識字学級に通う女性のメモ書きを配付する ・グループで考え合うようにする ・全く考えられないグループには、他のグループがマララさんの記事のどこに注目しているか伝えてもらう ・どのグループも困っている場合は、マララさんがノーベル平和賞を受賞した理由を再度確認する	10
	7 考えたことを伝える	・まったく分からなかった ・昔の人はしっかり勉強ができなかったから、今しっかりやっているのだと思う ・理由は分からないけど、女性はあまり勉強をしちゃいけない時代があったのだと思う ・なんとなく法律でそんな風に決まっていたんじゃない ・女性が差別されていたのかも	・まったく分からないグループがあっても認め、そのグループが発表を聞いて疑問に思うことを聞くようにする ・「なぜしっかり勉強できなかったんだろう？」 ・「どうしてあまり勉強をしちゃいけなかったんだろう？」	7

まとめ	8 あけぼの「やさしさを伝えるために」を読み、おばあさんたちが勉強している理由を確認する	・子どもに差別されていて勉強ができなかった ・おばあさんだけでなく、おじいさんも勉強している	・「どうしておばあさんたちは勉強していたんだろう？」 ・女性だけではないことを確認する	6
	9 本時の振り返りをする	・おばあさんたちが大人になっても勉強している理由がわかった。今もそうなのかな ・差別されて勉強ができなくてかわいそう。どうして差別されていたのか知りたい	識字学級の人や差別について新たな疑問を持つ	5

17歳マララさん 平和賞



ノーベル賞 子どもの権利訴え 史上最年少で受賞

印のサトヤルティさんも

【資料：本時扱った新聞記事】
信濃毎日新聞 2014年10月11日（土）
信濃毎日新聞 2013年7月13日（土）

信濃毎日新聞

1973年（昭和48年）創刊
信濃毎日新聞社
〒380-0801 長野県長野市千代田1-1-1
TEL 026-235-1111 FAX 026-235-1112
http://www.shinno.co.jp

信濃毎日新聞

1973年（昭和48年）創刊
信濃毎日新聞社
〒380-0801 長野県長野市千代田1-1-1
TEL 026-235-1111 FAX 026-235-1112
http://www.shinno.co.jp

マララさん「ペンと本が武器」

【ニューヨーク共同】バキスタンで女子教育の権利を求め、イスラム過激派に銃撃された少女マラ・ユサフザイさんが16歳の誕生日を迎えた17日、世界の若者が集まる国連の会合に出席した。「私は全ての子供が教育を受ける権利のためにここにいます」と述べ、銃弾で人を怒らせることはできないと訴えた。公の場でマララさんの演説は初め。マララさんはテロや貧困の唯一の解決策が教育だと述べ、ペンと本を手にとろう。それが最強の武器と訴えた。少女が教育を受けられない割合が高いことを指摘し「私たち自身

16歳の誕生日「マララ・デー」 国連会合で教育を受ける権利訴え

マララさんは2007年に暗殺されたバキスタンのベタサル・フット元首相が使っていたペンを身に付けて、各国の若者リーダー約500人から拍手と大歓声を受けて登壇。マララ・デーは、この日ではない。権利のための声を上げる全ての少女少女の日だと述べた。



12日、ニューヨークの国連本部で演説するマラ・ユサフザイさん（共同）

が動こう。今こそ声を上げるときだ」と女性自ら闘うと呼び掛けた。その上で、各国政府は女の子に無償の義務教育を」と訴えた。自分に対する銃撃の報復は求めない」と話し、「自分を撃ったタリバンの子供たちも教育を受けられるようにしてほしい」と述べた。国連はマララさんの不屈の取り組みをたたえ、この日を「マララ・デー」と名付け若者リーダーのほか、潘基文事務総長にも会合を開いた。

⑥考察

子どもたちは、差別によって教育を受けることのできなかった人がいて、現在も識字学級で学んでいる高齢者がいることを全く知らない。そこで、「新聞は正しい情報を伝えるもの」という意識を持つ子どもたちに、差別によって教育を受けることのできない人がいることを、マララさんの記事を使って伝えた。子どもたちにとってその事実は大きな驚きであったが、一方で、それは遠い国の出来事であり、日本には関係がないととらえている子どももいた。しかし、その記事と識字学級で学んだ高齢者の方のメモを提示すると、それらを関連させて「日本にもそういう人がいたのでは？」と意識を変え始めた。さらに「どうしてその人たちは差別を受けたのだろうか」と新たな疑問を持った。

正しい情報を伝える新聞は、子どもたちに大きな驚きを与えるだけではなく、「どうして？」「もっと知りたい」という興味を生むきっかけも与えるのではないかと感じた。その興味こそが、子どもたちが学ぼうとする意欲につながると感じている。だからこそ、本時子どもたちは、関連がないように感じていた資料を結びつけて、問題を解決することができたのだと考える。



国語科授業デザイン

(1) 授業学級 3年 男子16名 女子11名 計27名 鬼熊正樹教諭

(2) 単元名 声に出して読もう「短歌を楽しもう」

(3) 本時の主眼

自分が気に入った新聞記事の選んだ理由を書き、選んだ理由、記事の内容や写真から短歌をつくらることができる。

(4) 授業の構想

《導入》

家の方から読んでもらった記事の内容を確認する。
自分がその記事を選んだ理由を学習カードに書く。

【学習問題（ジャンプの課題）】

新聞記事の内容や写真から短歌をつくってみんなに伝えよう。

【学習課題】

選んだ理由や記事の内容をもとにして、短歌をつくろう。

《展開》

選んだ理由や記事の内容、写真の様子から短歌を書いてみる。

↓ ※ペアの人と情報交換をしながらつくってもよい。

《まとめ》

書いた短歌をみんなに伝える。
聞いた短歌から感想を伝える。

(5) 前時までの活動

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で作られた短い詩ということを知る。

教科書に載っている短歌を、リズムや語感に気をつけて、情景を思いうかべながら音読し、好きな短歌を選んで暗唱する。

家庭学習として、自分が選んだ新聞記事の内容を、自分で読んだり、家の方に読んでもらったりにして、大まかな内容や読んだ（読んでもらった）記事の感想を学習カードに書く。



(6) 考察

自分で選んだ記事や写真から、短歌へとつなげた。記事や写真から思ったことや書かれている言葉をもとに短歌をつくらることができた。また、友だちと話をする中で短歌にできそうな言葉を見つけることもできた。

新聞の写真を活用することで、普段の生活では目にできない風景や、友だちとの会話の中では得ることのできない言葉などを学ぶことができた。

同じ記事を選んでも、一人ひとり感じ方の違った短歌をつくらることができた。発表の場面でその違いを感じさせることができた。

3 その他の新聞活用

(1) 新聞閲覧台



長野県NIE推進協議会から閲覧台の設計図をいただき、庁務員の先生に製作をお願いした。
朝や休み時間等に新聞を見る子が増えた。



登校すると職員室の新聞を読む児童。

(2) 図工の造形遊び【3・4年生】



図工で新聞紙を使って造形遊びをした。新聞をねじる、切る、巻く等の活動をした。

(3) 信濃毎日新聞出前授業【3年生】



児童の新聞活用に際して、『新聞の読み方』について出前授業をしていただいた。自分が気に入った記事を1つ選び、なぜその記事が気に入ったのかをみんなの前で発表した。この活動によって、新聞に関心をもつことができた。

(4) 社会見学のとめとして【3年生】



社会見学のとめとして、新聞にまとめた。3人のグループになって1つの新聞にまとめた。1人1つの記事ということで、3つの記事を書いてまとめた。

初めて書いた新聞であったので、文字数が合わないことや、見出しで内容が伝わらないこと等あったが、今後、出前授業で教わりながら書いていかれるように導きたい。

(5) N I E職員研修【7月9日(月)】

N I Eの研究指定校として、N I Eとはどのようなことなのか、低学年ではどのような授業が全県で行われているのかなどを知るために信濃毎日新聞読者センターの方をお招きして、職員研修を行った。

(6) 家庭学習としての新聞活用【5・6年生】

[illegible][illegible][illegible]

新聞記事を読み取ろう

神奈川の小学が
オセロ世界一に

デューコの新館グラハで9~12日
に開かれた世界少年オセロ選手
権で、小学5年の松本将士(将士)
=神奈川県一が、初出場で優勝
しました。

日本オセロ連盟(連盟)による
、選手権には大人も参加してい
て、11歳までの選手は国別別年少で
す。これまでの最年少記録は21歳
の日本人選手で、26年ぶりに更新
しました。

大会の公式サイトによると、現
在は男子小学生日本人選手を扱
り、決勝でタイの選手と対決しま
した。1勝1分で迎えた決勝3
戦目は、3対3で勝ちました。

将士は、小学5年時に日本
で生まれたゲームで、1970年に
品川区立小に生まれました。世
界選手権は1979年から毎年開か
れていて、連盟によると、今年(24)
の国・地域から14人が参加しま
した。

各地紹介の日何い使務い?

オセロによって読者からわかることよあう

一読者から年少記録、国日西暦何年に変更する?

調査 オセロの、日本オセロのゲーム王調べるいふ

この新聞記事の感想を書こう(60字以上80字未満)

家庭学習として毎週土曜日に発刊されている信濃毎日新聞のこども面『かいせつゾロリ』『学ぶのは楽しい』から子どもたちが興味をもちそうな記事を選び、家庭学習として取り寄せた。

毎日の家庭学習として記事の読み取りと感想を書いてきたことで、記述式の問題に手がつけられなかった子どもたちも、次第に自分の言葉で書くことができるようになった。また、記事の内容をまとめる問題も出してきたことで、要旨をまとめる力もついてきた。

また、毎日記事の一つ読んでいくため、その時々の中の様子を子どもたちがつかむことができた。記事を読むことで子どもたちの世界が広がり、世の中の動きに興味をもつようになった。

家庭学習で記事を読み、自分で興味をもったことについて調べる子どもたちも多かった。記事を読んで終わりではなく、もっと知りたい、どうしてそうなっているのだろうと、気になったことについて調べ、自主学習として学びを深めていく姿があった。子どもたちの主体的な学びにも新聞記事は有効だった。

IV 研究のまとめ

- 新聞閲覧台として『新聞コーナー』を設けたり、普段の授業や家庭学習の中に新聞を取り入れたりすることによって、新聞に興味をもって読もうとする姿につながった。
- 正しい情報を伝える新聞は、子どもたちに大きな驚きを与えるだけではなく、「どうして?」「もっと知りたい」という興味を生むきっかけを与えた。
- 家庭学習として記事の読み取りと感想を書くことで、記述式の問題に手がつけられなかった子どもたちも、次第に自分の言葉で書くことにつながった。また、記事の内容をまとめる問題から、要旨をまとめる力もついてきた。
- 新聞を作る活動を通して、文字を書くことに抵抗がなくなった。社会見学などのまとめには、新聞形式でまとめることが有効であった。

V 残された課題

- 一部の職員だけが取り組むのではなく、全職員で新聞を活用した授業や学習を考えていく必要がある。通常学級だけでなく、特別支援学級でも取り入れられる方法を探っていく。
- この授業のこの場面で、この教科のこの単元で新聞が使えるという視点をもちながら、教材研究を行う。